西東京市市民協働推進センター
平成 21（2009）年度第９回　運営委員会会議録（確定稿）

■開催日時：平成２２年２月２３日（火）　午後７時～９時２０分
■開催会場：市民協働推進センター　サロンコーナー（イングビル１階）
■出席委員：熊田委員、小林委員、坂口委員、中曽根委員、原委員、宮﨑委員、山辺委員、吉田委員
<以上８名、五十音順>
■事 務 局：鈴木センター長、丸木地域福祉課長、中澤主事、加藤

○委員長が、小川委員は人事異動のため転勤し、後任の方に委員を引き継ぎしていただけることを報告。

１．報　告　事　項

１．業務報告について

○1 月の月次報告について事務局が説明。

事務局：「協働を考えるシンポジウム」について、１月７日に講師の方々と市役所、センターの職員で打ち合わせを行った。１月８日には大名刺交換会の広報をＦＭ西東京に出向いて行った。３月７日に実施される NPO 市民フェスティバル実行委員会の第３回を１月８日、第４回を１月２５日に開催した。NPO 市民フェスティバルには現在約３０団体が参加を予定している。協働を考えるシンポジウムは１月２７日に実施した。一般の参加者は３８名、市役所の職員は３４名。市職員は、協働について学んでいこうというスタンスの中で、役所の研修として参加した。トークサロン国際交流編は副委員長にご協力いただき、定員を超える１６名の参加者で実施した。三つの事業の様子についてはゆめこらぼ通信の第５号に写真を掲載してある。組織内事業・会議の中での高齢者大学はボランティア活動の「基本②」ということで、市民活動をしている２人をゲストに迎えて実施した。

委員長：各事業については運営委員の方のお力添えをいただいているものもあるので、どういう状況だったか感想も含めて、参加された委員からご意見をいただきたい。
大名刺交換会については参加された委員がいないので、事務局から報告してほしい。

事務局：大名刺交換会には４４名の参加があった。今までの市民ネットワークは２０名前後だったので倍以上となった。市民団体以外にも会社経営者や、商工会、心理関係のカウンセラーなどいろいろな方が参加され、子育てママのサークルとカウンセラーが一緒にイベントを行うような話も進んでいる。約２時間実施した。司会者の声が届かないほど盛り上がった。もう少し時間が長くてもよいという声もあった。プログラムは決めずに、「しゃべり合える」「出会える」ことをメーンにした。

委員長：盛況だったようだが、行政関係者の出席がなかったのは残念。参加を呼びかけて出席を願いたい。協働を考えるシンポジウムに参加された委員の方の感想を聞きたい。

委　員：参加者が大勢いてびっくりした。市の職員の方も多かった。他市の事例で全体の雰囲気を高めて協働を推進するための工夫をしているところが良かった。安藤雄太氏の講演も良かった。

委　員：市役所の方、鈴木センター長のような立場の方、NPO の方が話されたが、それぞれの立場がはっきりしていて面白かった。お金の動きがわかると参考になったと思う。「協働についてもう一度考え直さなければならない」という締めくくりは良かったが、協働について、今また考える時期なのかとも思った。

委　員：行政側も努力され職員を多く呼んでもらえ、市民の参加もたくさんあり良かった。ただ、市の職員が話さなかったのは残念。市役所の事業を実施している担当課とその事業を協働している団体が組んで一つの事例を発表し課題を出していかないと他人事になってしまう。ぜひ継続してやった方が良い。今度はうちのまちの協働事例にフォーカスすると良い。

委員長：参加者が多く、前回の運営委員会の危惧は杞憂であった。柏市の事例発表者は市の職員であった。自信を持って話されており、協働への思いや姿勢が伝わってきて、西東京もあのようになってほしいと感じた。それぞれの到達状況はあろうが、今できることをしっかりやっていくことが我々の役割だと思う。できれば数年後、柏市のように外へ出て話すことができるようになればありがたい。非常に勉強になった。継続的に企画してほしい。

委員長：トークサロン国際交流編について、副委員長より状況を教えてほしい。
委　員：高校生の参加がうれしかった。外国で生活していた方もいて、何かやりたいけど、どのようにやったらよいかわからないという感じだった。年配の女性から「私でも参加できるのか」という声があり、後日夫婦でＮＰＯ法人西東京市多文化共生センターを訪れた。何か用意されたものがあればそこで活動していくというような方が多いが、自分たちで企画し、進めていけるようになるとよいと思う。そういう思いを持つ方々をつなぐ一つの場だった。いろいろ挙げていただいた案がどういう形になっていくのか、予測は難しい。そういう場を設けながら、すぐに参加はできないけれど何かしたいという気持ちを聞きながら、どこかできっかけづくりになれば良い。
委員長：トークサロンは続いていくので、またお力添えをお願いしたい。
事務局：1 月に当センターに登録した市民活動団体は「西東京スクエアダンスクラブ」「NPO 法人匠リニューアル技術支援協会」「子どもげきじょう西東京」の３団体。
相談件数は９件。センターへの事業提案に関する相談が２件あった。
委員長：質問はあるか。スクエアダンスとはどういうものか。
事務局：アメリカの開拓時代のダンスで、６人１組で踊る。市民フェスティバルに参加して踊るので見にきてほしい。
委　員：戦後の公民館活動で１番早く取り入れられたダンスだ。
委　員：センターへの事業提案に関する相談の２件とはどのようなものか。
事務局：１件は子育てやキャリア教育をテーマにしたトークサロンを協働で実施したいというもので、新年度の事業計画が決定した時点で返答すると伝えた。もう１件は障がい者施設のメンテナンスやセンターのイベントの会場設営などでボランティアとしてかかわりたいという提案。大名刺交換会や NPO フェスティバルに参加し自分たちの活動や企画を提案して知ってもらうよう勧めた。

2．２月以降の実施事業について

事務局：「２０１０ NPO 市民フェスティバル実行委員会」は第６回を２月１３日に開催した。第７回を３月１日に開催の予定。
「２０１０ NPO 市民フェスティバル参加団体向け事前説明会」は２月１３日（土）午後６時３０分から８時まで開催した。参加団体２８のうち２５団体が出席した。フェスティバルの概要、ステージ発表のタイムテーブル等を資料に添って説明した。フェスティバル当日、参加団体の活動の様子を書いた冊子を配布する予定なので、その原稿を各団体にＡ４判１枚でお願いした。印刷は業者に発注し５００部刷る予定。
アドボカシー講座「市民のちからでまちは変わる」は講座名の難しさと、父子家庭の問題を取り上げることからパパ向けの講座ととらえられたかもしれず、参加希望者が少ない。現在は７名。面白い話題だと思うが、うまく伝わらなかった感も否めない。メーリングリストでもう 1 度ＰＲしたい。また、電話があったので２月２５日か２６日の読売新聞に記事が掲載されるかもしれない。
「２０１０ NPO 市民フェスティバル」はテーマを「こんな市民活動があったのか！西東京」とし、西東京市内には意外と知られていない、面白い市民活動、団体があるんだということを知ってもらう機会にしたい。一般の参加者だけでなく、市民活動をしている人同士が互いの活動を知る機会にもしたい。２８団体が参加し、２０団体がステージ発表（１団体当たり１５分間）をする予定。このうち７団体は映像を流しながら発表する。また、高齢者支援課から器材を借りて血圧測定と脳年齢測定のコーナーも作る予定。休日勤務となってしまうこともあり、市の職員は派遣されない。大学生のボランティアが１５名ほど参加してくれることとなった。このフェスティバルは自分たちで作り上げることを基本としている旨を説明会で伝えたところ、各団体からも手伝いに多数参加してくれる。終了後、午後５時から市役所１階の食堂で交流会を行う。参加団体の労をねぎらうとともに、そこでまたみなさんにつながっていただき、コラボが生まれることを期待している。
「トークサロン」は３月 18 日午後７時から当センターのサロンコーナーで開催予定。エフエム西東京の有賀達郎氏がゲスト。「コミュニティＦＭとは何か」について話してもらう。イメージとしてはこの地域において FM 西東京というメディアを有効活用するコツとメリットなどを皆で話し合いたい。市民活動団体側としてはメディアをうまく使って活動を広げる方法、活動を多くの人に伝えるコツを話題にできればと考えている。FM 西東京としては市民活動情報が増えることで放送コンテンツの充実や、市民の欲しがっている情報を発信してもらえるきっかけとなるような話し合いができるとよい

と考えている。

委員長：２月以降、大きなイベントが続く。アドボカシー講座は前回から報告されているので状況についてはご承知のことと思う。ＮＰＯフェスティバルもかなり大きなイベントになる。トークサロンも予定されているが、何か質問はあるか。

事務局：追加の報告で、２月２８日（日）に実施される田無朝市にセンターも参加する。これは「三者協働（地域住民・諸団体・商業者）による商業と生産者が潤う地域づくり」を目的に取り組んでいる。詳しくは商工会の委員から説明していただきたい。

委　員：今回が初めての事業。補助金がつき商店会の協力をいただいて準備している。ただ準備期間が短く困っている。大勢の人に集まってほしいので、宣伝かたがた委員の皆様にもご参加とご協力をいただきたい。

事務局：参加する市民団体は市内の作業所とダンスのサークルである。
昨日、企画政策課主催でセンターの利用者懇談会があった。出席された委員より報告をしていただきたい。

委　員：アンケートの結果を見ながら意見交換をした。１年目としてはさまざまな企画がありとても充実していたので、今後も期待できる。センターの開所時間についても意見が出た。参加した４人は不便を感じていないが、事前アンケートからは、もっと早く開所して欲しいという声があった。しかし、一方では仕事が終わった後で会議をしたいので早く閉まっては困るという声もある。利用される方が様々なのでもう少し様子を見るとよい。また、センターの認知度が低いことに対する提案があったが、実現の見通しは不明。企画政策課から積極的に意見を求められた。全体的には評価が高かった。

事務局：センターを受託する際に評価の仕組みを作るということでプレゼンテーションをした。再来年くらいまでには第三者による評価の仕組みを作りたい。運営委員会でも今後評価の仕組み作りについて議論していただきたい。

委員長：質問はあるか。

委　員：朝市はチラシだけか。

委　員：新聞に折り込む予定。急に決まったので、いろいろ難しい。

委　員：先ほどの利用者懇談会の報告の追加だが、「トークサロンに参加していろいろとつながりが広がった。ゆめこらぼがなくては困る」という発言があった。トークサロンから広がったのがうれしい。また、「お茶が飲めたらよいのに」という意見、さらに、ポットがありコーヒーを注文できればという意見もあった。

委員長：利用者懇談会を受けて、今後運営委員会で検討していかなければならないこともある。大きなイベントが続くのでできるだけご参加いただきたい。実施後にまた、参加された委員の方から感想をいただきたい。

２．審　議　事　項

１．第8回運営委員会会議録について

○前回の第７回運営委員会会議録を確定稿とすることとした。

３．協　議　事　項

１．2010年度西東京市市民協働推進センターの予算及び事業について

委員長：予算および事業について事務局から説明してほしい。

事務局：「市民シンポジウム」は昨年実施した際には近隣市の職員も参加した。そういう中でつながりができていくのではないか。
「機関紙の発行」は、ゆめこらぼ通信を２カ月ごとに発行し、第５号まで出した。毎回千数百部を配布した。ゆめこらぼが実施した事業の報告が基本だが、これから行う事業の案内も載せている。利用者のその後のステップアップの事例も載せている。
「市民活動・コミュニティビジネス講座」は、この講座を受けた人の中から「まちづくり研究会」というような団体を作ろうという動きがある。ここに集うことにより流れができ、結果的に地域が活性化

する起爆剤になるとよい。
「アドボカシー講座」は市民の声が行政の仕組みに反映されていくことが大切である。
「会計講座」は実務的な講座が求められている。
「企業懇談会」は、昨年は２回実施した。６社の方に参加していただき、少し横のつながりができたかなという程度だった。企業は本業の方で余裕がなく地域貢献にどれだけの時間・労力・資金を投入できるのか難しい面もある。ただ、差別化を図るためにＣＳＲを取り入れ、企業のブランド化を消費者にアピールしたいという傾向もある。企業が地域貢献に目を向けるきっかけづくりをしたい。
「２０１０ ＮＰＯ市民フェスティバル」は実施後に検証したい。
「ＮＰＯ・市民活動ネットワーク」は、昨年は４回実施。会議の話題の中でＮＰＯや団体が自分たちの活動を多くの人に伝えることに頭を悩ませていることがわかった。参加者同士がチラシを持ち寄り、互いに赤入れし、広報力を高めようということになった。また、フェスティバル参加者の中からイラストが描ける人、広告の仕事をしている人を見つけチラシ作りのコツを教えてもらえば、市内のＮＰＯの広報力の底上げになるのではないか。
委員長：次年度の事業について気付いたことはあるか。
事務局：項目の中でアドボカシー講座は人材養成事業へ、ＮＰＯ市民フェスティバルは地域連携事業へ入れ替えた。
委員長：大きな柱に変更はないが、細かい内容についてアドバイスなどがあればお願いしたい。私が気付いたのは、例えば今年のＮＰＯ市民フェスティバルで来年の布石を打っておいてもよいのではないかということだ。活動できる団体があれば、来年用に打診してもよいのではないか。
委　員：人材バンクとはどのようなものを目指しているのか。
事務局：ホームページの中に地域の人材情報を蓄積していきたい。センターの職員が仲介し地域の人材と市民活動団体を結びつけるというように考えている。
委　員：どのように紹介するのか。
事務局：既にある他の地域の人材バンクのホームページを参考にし、ホームページ上に人材の情報を提示し、地域の人材がわかるようにしていく。ただし個人情報は出さない。
委　員：求める人の連絡先をゆめこらぼで教えてもらえるのか。
事務局：当事者同士の直接のやり取りは避け、センターが間に入りワンクッション置きたい。
委　員：人材はどんどん増えていくと思うが、分類するのか。市内と限定するのか。
事務局：今の段階では市内と考えている。
委　員：有償、無償の制限もないのか。
事務局：制限しない方向で考えている。
委　員：細かい内容については運営委員会で詰めていくとよい。
委　員：市内での助け合いも大切だが、例えば北多摩地区や近隣数市の支援センターに声をかけて共同でハードを作る。そうすればコストや人材もシェアできるのではないか。
委員長：西東京が接しているのは、武蔵野、小平、清瀬、東久留米、練馬、新座、三鷹。センター同士のつきあいも大切と考える。
委　員：私の勤務先では同じ検索システムで、格安でデータベースができるということをやっている。共用できるような作り方をするとよい。そのシステムを相手にもお金を出して利用してもらえばコストシェアもデータシェアもできる。早めに声をかけておくとよい。今年できなければシステム自体の設計をそのようにしておいて、再来年以降予算をつければよい。スタンドアローンにしない方がよい。
委員長：今提案された内容を今後視野に入れて検討したい。他に質問はあるか。
委　員：多摩北部都市広域行政協議会で５市の行政がつながっている。環境の面では５市がつながっているはずなのに、５市で行った調査のデータが市民に返ってこない。例えば、緑被率が西東京市は２５％なのに清瀬市は４０％台であるとか、１５年間の変化などが書かれている資料を市に借りに行っても貸してもらえない。また、１市の行政の中でも横の連絡が取れておらず情報が共有されていない。行政のネットワークと市民のネットワークが近くなるとよい。センターが関われば横の連絡ができるのではないか。
委員長：ＮＰＯや市民活動団体にとってコアな情報がセンターに集まるようになるとよい。ゆめこらぼは人と人だけでなく、情報もつなげるようになればよいが、保管スペースなどを考えると一概には言えない。情報が引き出せるシステムがあるとよい。細部については実施していく時にまた検討することになると思う。これで２０１０年度は実施していくということで事業（案）のご承認をお願いしたい。

次に予算について説明してほしい。
事務局：本年度追加で受けた東大農場における「ひまわりプロジェクト」は本来であればセンターが直接行うのではなく、市内のＮＰＯ・市民団体にやっていただき、センターは支援をするという形が望ましいという運営委員会の意見を市に説明し、こちらの予算案からは抜いてある。市からは募集しても団体が見つからない時にはセンターにお願いするかもしれないと言われている。
「市民活動に関する相談事業」では、専門相談会という形で開催したい。講師料が高いので２日×２回～３回の予定。年間を通しての開催はできない。相談事例集は紙代のみ計上した。
「情報の収集・提供事業」では、ホームページの予算と人材バンクのデータベースの費用は確保できたので計上した。情報ボックスはボックスの単価×個数。
「人材養成・研修事業」では、実務的な講座（例えばプレゼンテーションの方法や助成金の申請のしかた）の開催を望む意見が多くあったので、コミュニティビジネス講座の中にそういう要素を取り入れていきたい。また、これから活動したい人の支援も大切にしていきたい。
「地域連携促進事業」では、企業懇談会については、市内の企業を取り巻く状況が厳しくＣＳＲの担当部署の人員削減も行われている。なかなか難しいが、継続的に顔合わせを行っていきたい。
「施設の提供及びその他の事業」では、トークサロンで１２回分計上している。
「運営組織経費」では、運営委員会は１３名分で計上している。
「諸会費」では、日本ＮＰＯセンターの会費を計上した。
委員長：質問はあるか。
委　員：明細表の方で科目が計上されているのに０円というところは、本来はこれだけ掛かるが今回は無しということか。
事務局：懇談会などで講師を呼ぶ必要がないと判断した部分が０円となっている。
委　員：トークサロンは今年のように環境を１回、子育てを１回という感じなのか。
事務局：予算は今年と同じ様に計上しているが、運用のところで１回当たりの単価を下げて子育てに回すことも考えている。今年は運営委員の皆様にお願いしたが、次年度は市内で活動している方々にもお願いしていくつもりだ。
委　員：東大農場の件について「どこかでコーディネートしてほしい」「市ではできないからお願いしたい」というような形で流れてきたと思う。それはコーディネートをセンターがして市内の関係する人たちに声を掛けて一緒にやっていったらよいのではという提案だったと思う。事務局の話だとセンターでするわけにいかないから市に戻す。市の方で探して適当なところがあれば委託してやってもらう。そういうことになると、戻し方が違うのではないか。
事務局：センターができないからというのではなく、センターが単独で直接実施するよりは市民活動団体が主となりセンターがそれを支える形になる方がよいと考えた。
委　員:市が委託しようとすると、提案を競わせ関心を持った市民同士がライバルという関係になってしまう。センターが手を挙げたみんなが持っているものをつないでいくようにすれば、これまでにない展開ができるチャンスのある事業だと思う。市の競い合いのパターンに戻すのはもったいないのではないか。
委　員：東大との関係には特殊な条件がある。東大は市が関わってほしいと思っているようだ。当初センターができ受託すると聞いた時には、センターが市民団体の活動を取ってしまうのではないかという危惧があったが、結果としてうまくいった。ここでセンターが事業を返してしまうと団体同士の競合が危惧される。昨年のようにセンターに音頭を取ってもらうと仕事も分担できてやりやすい。
委　員：企画政策課が募集するくらいならセンターが受託して募集する方がやりやすいのではないか。
事務局：３月のフェスティバルは実行委員会形式で行うが、東大農場の事業も関係する団体で実行委員会を組織しそこが主体になって行う方法もある。センターが受託して実行委員会形式で行う方法が取れるかもしれない。
委　員：環境団体をどうやってまとめるかが問題。環境の分野は多岐にわたるので、募集する時に団体の違いがわかりにくい。また市民活動には農業者がなかなか入ってこない。実行委員を募集すると環境団体のネットワークができるきっかけになるかもしれない。
委　員：センターのマンパワーを考えると初めの契約に入っていない事業を引き受けるのは大変。センターが元請けになり、実行委員会かいくつかのＮＰＯに大半をやってもらいセンターは事務処理を引き受けるような形は取れないか。
委　員：東大農場の事業はすごく良い事業だったと思う。
委員長：昨年度はゆめこらぼが大きく関わったことは事実だ。事業が市に移ってもアドバイスなどの関係性が

持てると思う。しかし、これだけの事業を限られたスタッフで行うのは厳しい。東大農場の事業は市がメーンに行う方がよい。市の方へ戻ったというのが実態なのだろう。改めて仕切り直すと予算の問題もあるので、今まで出てきた方向性を市に示しながら働きかけてもよいのではないか。市に返しているのでセンターがメーンでするのは難しい。東大農場との関係では市の顔が出た方がまとまりやすいのではないか。メーンは市でもゆめこらぼもサポートしていくという形で若干関わりながら進めていくのがよい。

委　員：予算はついていないのか。

委員長：ついていない。環境の問題の取り組みは複雑な問題を抱えていることがわかったので、ゆめこらぼがどう関わっていくかは大事な視点だと思う。

委　員：協働とは何か、構造的にきちんと考えておく必要があるのではないか。行政と民間がもう少しうまくやれればよいのではないかと思う。

委員長：１年の取り組みの中で協働とは何だったのか振り返りが必要である。「何が協働でできたのか」「協働には何が必要か」などを意見交換することが必要である。環境の問題には明るくなかったので、いろいろな話を聞けて複雑さが実感できた。

委　員：東大農場の件は環境の問題というのではなく協働の事例だと思う。東大農場は市との関係を持っているが、ネットワークを持っているのはゆめこらぼである。

委　員：エコプラザに関わっているが団体登録の仕方がゆめこらぼとは異なり悩むこともある。環境系の団体はほとんどエコプラザに登録しており、ゆめこらぼもエコプラザとの関わりを考える必要がある。

委員長：東大農場と完全に手を切るという形ではなく、協働をどう考えるかという一つのケースとして推移してもらうとありがたい。

委　員：ゆめこらぼの参加費収入が増えても受託料を減らされるということはないのか。

事務局：変わらないと思う。

委　員:ゆめこらぼの参加費収入が少ない。例えば会計講座の参加費が５００円というのは安いのではないか。

事務局：５００円とすることの理解を得ることについても議論した。

委　員：受益者負担の考え方もある。安くすればするほど参加者の質は下がる。一定の参加費を取ることを市に言っていかないといけない。運営委員会で検討して、市に進言してもよいのではないか。

委　員：事業費で講師の予算を取っているのにさらに参加費を取ると二重に取ることになる。個別相談会のような内容であれば、もう少し多い参加費も徴収できるのではないか。

委　員：他の市では徴収できている。

委　員：計上の仕方が異なるかもしれない。

委員長：参加費をどのように考えるか。税金が使われているのにさらに参加費を取るのはどうかという意見もある。お互いの立場を超えて理解し合えるかが重要である。２０１０年度の検討課題としたい。

2. ホームページについて

委員長：サイトマップについて説明してほしい。

事務局：資料を説明する。

委員長：本日の提案は、予算計上に伴うサイトマップの構想の提示であった。委員の作成したものとの関係性も今後の運営委員会で検討していきたい。改めて３月の運営委員会で確認したい。

４．そ　の　他

1. 次回運営委員会日程について

事務局：次回は3月１６日（火）19時～２１時、場所は未定。

以上をもって散会した。